

皆さんこんにちは。ベトナムから来た Mai Vu Dat(マイヴーダット)と申します。23歳のものです。出身はベトナムの北部にあるハナム省というところですが、ベトナムのハノイから60キロメートルぐらい離れています。

現在、宇都宮大学の工学部の建設学科建築コース3年生として勉強しています。その前に2年間に東京で新聞配達をしながら日本語学校に通っていました。その時、自分に「なぜ日本を選んだのか」という質問を多くの人々から聞かれました。しかし、私にとって日本を選ぶ理由がすぐ答えられなく、頭で色んな事を思い出しました。日本へ留学することを決意したのは18歳ごろでした。当時、お金持ちではない家族に育てられる私は留学ということは現実ではない夢でした。しかし、そのような夢でも頑張ればできると信じた私は高校の基礎知識がもちろん、留学情報も調べて来ました。先進国中で勉強の環境が良い、お金がなくても勉強ができるという条件に満たすのは唯一日本でした。それで、迷わずに日本へ留学しました。

そして、これからの話は自分の生活について話したいと思います。今、宇都宮大学で在学しております。宇都宮大学に入る前に、2年間に日本語学校で勉強しましたが、日本語能力がまだ足りない私は大学の専門知識を身につけることができるかという心配がありました。しかし、先生、先輩たちと日本人友達は温かい目で見守っていただき、大学の2年間を乗り越えました。大学の1年目に、主に社会系の共通科目及び数学、物理のような基礎科目を履修し、2年になってから建築の分野で専門科目を履修しています。それで、学習につれて知識を補充されていると実感があるとともに建築分野に関する自分自身の興味が深まっています。これから2年が重要な時期だと感じています。なぜかといえば、将来、建築士になるために、建築分野に関する知識を身につけたいと思います。それで、この2年間で自分の責任を持って計画を立てなければなりません。

大学の学部4年を卒業したら、すぐ就職してもいいと思いますが、もし社会を出て、最初の数年間には社会人としての勉強が多く、建築分野について自体の勉強がその先にあり時間かかると思います。それで、せっかく日本へ留学するので、建築分野の専門知識をできるだけ多く身につけたいと思います。だから、大学が終わったら、まず大学院に行きたいと考えています。そして、大学院を終了したあと、ベトナムに帰ります。必要ならば、日本建築会社で数年間に働き、会社で経験を積んで十分な専門性を身につけたら、ベトナムに帰ってこれからの社会にできるだけ貢献をしたいです。その先、私はまだ考えていませんが、イメージとして日本建築士と友達と一緒にベトナムで『設計顧問』のような会社をしたいと思います。なぜかといえば、現在ベトナムの建設の中で、特に建築分野では大きな建築物を設計すれば、設計と施工に依頼できる会社が少ないという状況で、もし自分の会社の日本建築士は建物の設計を顧問すれば建設費や材料のコストが削減できると思

います。それで、自分の力でベトナムの社会に貢献でき、日本とベトナムの建築技術交流の懸け橋になれると思います。

今年の4月から奨学生としてロータリー米山奨学金の宇都宮西クラブに参加させて頂きました。まだ、数ヶ月しか経っていないのですが、みんなの優しさを感じでき、有意義な時間を過ごせました。ロータリー米山奨学金が私の経済生活を支援してくれており、本当に感謝したいと思います。これから、自分のできることをできる限り一生懸命にしながら生きていきたいと思っています。